

西日本豪雨災害支援 第3陣(7/27~7/28)

7月27日、28日で広島
の坂町での災害支援ボラ
ンティアに参加した。広
島駅にて総勢約50名の全
国民医連職員が集合し、
その後バスにて現地向
かった。現地に行く途中、
土砂崩れの為、線路が使
えない等の説明を受けた
が、現地近くに着くまで
はそれほど被害はない
ような様子ではあった。
しかし、現地に近づくに
つれ、道路の状況が悪く
なり、渋滞が日常的に発
生していることを確認で
きた。いざ現地に着くと
山あいの谷間を多量の土
砂が流れてきて、川が川
としての体裁を保ってお
らず、さらに道路があっ
たであろう場所も土砂に
より判別できなくなっ
ていた。土砂が橋でせき止
められ、その結果水の行
き場がなくなり、川の両
サイドに流れ出した事で、
川沿いの家の1階の半分
ほどまでが土砂で埋め尽
くされているというショッ
キングな状況に唖然とし、

またそんな中でも住民の中には避難所にはいかず、日中は2階で生活されているという方もおり、さらに驚かされた。

作業内容は家屋内の土砂の吹き出しであったが、家屋内に残った土砂は固まり、木の根っこが大量にあり、スコップも上手く入らず、なかなか作業が進まない状況でもどかしさを覚えた。翌日に台風が近づいてくることもあり、午前中のみの作業ではあったが、10人1グループで作業して、やっと畳半畳程度が見えるというような進捗であった。為、本当にこの規模の作業で復旧、復興が進むのだろうかと思力を感じた。ただ、その反面こういった少しずつの積み重ねが大切であることも実感としてはあるため、引き続き支援は必要なのだろうと思う。

今回の支援で被害状況は部分的にしか見ることが出来なかったが、熊本地震と比べ、水害や土砂流入の方が生活再建に多大な時間がかかるのではないかと感じた。今後来るであろう台風などでさらに被害が拡大しないことを祈りたい。

菊陽病院 中村更、馬着隆介

県連ニュース

発行者：木原 望

TEL : 096-387-2826

F A X : 096-381-5442

くわみず病院の尾田先生が水島協同病院へ
医師支援に行かれました!!

